

◎体験学習

第14回喘息児童の夏期教室へ参加して

高田 信江

(岡山大学医学部附属病院看護部)

両親と離れて生活する事により、自主性を養い乾布摩擦、喘息体操、水泳、野外活動等の鍛練療法を行い、喘息発作に耐えられる体力を作り、健康児童に負けない、精神力を養う事を目的とされ、環境の良い勝山の地で、夏休みを利用して、喘息治療の一環として、日本アレルギー協会中国支部主催による喘息児童の夏期教室に、参加する機会を得、期間中に児童と24時間起居を共にした経験を報告します。

概 要

期 間：昭和61年7月29日～8月2日

場 所：岡山県真庭郡勝山町勝山妙円寺

対象者：小学校2年～中学校2年まで 38名

<スタッフ>

夏期教室長：大藤 真(岡山大学学長)

副 “ 木村郁郎(岡山第2内科教授)

指導教師：5名(小学校教諭)

医 師：33名

看護婦：4名

指導助手：7名

主 催：(財)日本アレルギー協会中国支部

後 援：岡山大学医学部第2内科学教室

医療法人水島第一病院

院長 滝沢千之助

医療法人勝山病院 院長 竹内義郎

感 想

7月29日から8月2日迄の5日間、看護面の担当者として、参加しました。参加児童は小学2年～中学2年迄の38名で6班に編成、倉敷、岡山市、真庭郡、倉吉市等いろいろな方面からの参加者でした。この夏期教室は、今年で14回目、すでに何回か参加した事のある児童は旧友に会うのを楽しみにしていた様で話はずんでいました。参加児童の2/3は初参加でしたが、班の発表、自己紹介後は、すぐ仲よしグループも出来たりして、全員が友達といった楽しい場所となりました。夏期教室の内容は、毎日朝6時起床、乾布摩擦からはじまり、喘息体操、お寺の掃除、朝の診察、歌唱指導、水泳訓練を繰り返し、午後は日変りで、野外リクリエーション(小運動会)、オリエンテーリング(蒜山パーマメントコース)、飯ごう炊さん、キャンプファイヤー(旭川河畔)を行なって、生活にリズムをつけ、又、何事にも自信を持たせる様工夫したプログラムが組まれていました。5日間、親元から離れて生活をするので、保護から離れ、不安により発作が起こるのではないだろうか、喘息発作をくり返す子供とあまりかわりもなく、経験も少ない私の方が不安に思っていました、この心配もほとんどありませんでした。朝夕に行なわれる診察時に、発作の起こりそうな児童は、早目に内服、吸入の予防処置が行なわれ、夜中～早朝に発作を起こして、点滴をしたりした

児童も数名いましたが大発作に至らず、大発作を未然に防ぐことにより、健康児と全く変らない事を知りました。小運動会、水泳、オリエンテーリングと炎天下の中を伸び伸びとかけまわり遊び、楽しみ、仲間はずれの子供もなく、この児童達が喘息に悩む子供達だろうか、ふと思う事もありました。最終日には児童達を書いた作文を読んで悲しかった、辛かったと書いた人は、一人もなく全員が楽しかった、とてもよい思い出がたくさん出来て来年も是非きたいです…と書かれていて5日間の疲れもふっとび、参加してよかったと思

ました。この教室に参加した事により児童は、体力、精神力に自信をつけて、より成長した事を、何よりの貴重なおみやげとして、家族が待つ家へ帰った事と思います。私自身も喘息児童の日常生活の一部に触れて、起居を共にして、ただ一人のオバチャンスタッフとして、いい体験学習になりました。院内において、今後この経験を生かし頑張りたいと思います。当院に通院している多勢の子供達一人でも多く参加出来たら、素晴らしい事だと思いますし私自身も又、機会がありましたら、是非参加したいと思いました。